令和６年度　日本大学危機管理学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： 危機管理学部　危機管理学科
資格： 准教授
氏名： 加納　奈保子

研究課題名	19世紀米国作家の作品に表象される「レジリエンス」と「ケアの倫理」についての研究
研究目的及び研究概要	昨年度に引き続き、19世紀アメリカ文学に表象される「ケアの倫理」の諸相を明らかにすることを研究目的とした。前年度は、「ケアの倫理」の提唱者であるキャロル・ギリガンの主要著作を分析し、そのなかでたびたび参照されているナサニエル・ホーソーンの『緋文字』について研究発表を行った。 本年度は、ホーソーンの長編第二作である『七破風の屋敷』に通底する「ケアの倫理」と、そこに描かれる女性たちのレジリエンスの表象について考察を深めた。第一波フェミニズムの黎明期、あるいはその前夜にあたる19世紀中葉のアメリカにおいて、男性作家でありながら、先進的な女性たちに囲まれ、彼女たちの知性と悲哀に満ちた生を自らの想像力に取り込んだホーソーンは、「もう一つのアメリカ」の物語を提示している。作品のメインプロットの裏に消え入りそうだがはっきりと息づく女たちのレジリエントな生を明らかにした。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	本年度は日本ナサニエル・ホーソーン協会全国大会シンポジウムでの発表と、学会誌『フォーラム』への投稿、*NHSJ Newsletter*への英文要旨の掲載など、研究活動を通してある程度の成果を世に出すことができた。次年度以降には、すでに研究発表は行ったキャロル・ギリガンとアメリカ文学についての論考を論文にするなど、積み残している研究を進めていきたい。 【会議録掲載論文】 内堀奈保子 『七破風の屋敷』におけるピンチョン家の女たちの系譜――肖像画に描かれない痕跡とレジリエンス」『フォーラム』 、査読無、第30号、2025年3月、17-21頁 【シンポジウム発表】 内堀奈保子「ピンチョン家の＜女たち＞の遺産／レジリエンスーー『七破風の屋敷』における「ケアの倫理」」、日本ナサニエル・ホーソーン協会 第42回全国大会シンポジウム「レジリエンスから読む19世紀アメリカ文学」、2024年6月30日、於　関西学院大学 【Abstract】 Naoko Uchibori, ’The Legacy of Resilience in the Women of The House of the Seven Gables,’*NHSJ Newsletter*, vol.30, February 2025, The Nathaniel Hawthorne Society of Japan 【読書会発表】 内堀奈保子、2024年12月7日、「Reading of_Hawthorne’s Histories, Hawthorne’s World: From Salem to Somewhere Else by Michael Colacurcio (Chap. 11)」日本ナサニエル・ホーソーン協会東京支部読書会、於　日本大学